

2. 学術的サマリー (Technical Summary)

動的相殺理論 (D.C.T.) とアマテラス・トランシア・プロトコル

【背景】

現代物理学における真空エネルギーの予測値と観測値の 10^{120} もの乖離（宇宙論的定数問題）に対し、これを時空の安定性を維持するための「動的負荷（サンプリングレート）」として定義する。

【核心理論】

宇宙の表面積比率（ホログラフィック原理に基づく） $N \approx 10^{124}$ を粒子の出現頻度とし、慣性や質量を「静的な性質」ではなく、真空から出現する粒子の超高周波パルスによる「動的な相殺プロセス」として捉える。

【統一場への洞察】

磁力と重力は同一の粒子（アマテラス粒子）の循環であり、局所的な高速循環が磁力、広域的な構造流が重力として現れる。

【社会実装】

- 医療: 衝撃を100%中和する「無重力担架」。
- 防災: 地震エネルギーを空間で相殺する「衝撃散逸バリア」。

撃散逸バリア」。